

あの災害から1年



災害時

大分県と福岡県を結ぶJR久大本線の花月川橋梁の様子
(6月13日現在)

平成29年7月の九州北部豪雨から1年。断続的に降り続いた記録的な豪雨によって、河川の氾濫や土砂崩れが市内各所で発生し、尊い人命が失われるなど甚大な被害を受けました。

今号では、災害発生から1年経ち、どのように復旧しているのかを写真で振り返り、市が進めている「日田市復旧・復興推進計画」を基に取組の現状をお伝えします。

現在



<暮らし・住宅再建の支援>

被災地区の住民の中には、住み慣れた地域の中で引き続き暮らしていきたいという希望もあることから、市営住宅の建設などによって地域内移転の支援を行うため、再建に向けて地域住民と意見交換等を行っていきます。

地方創生推進課創生企画係
☎②8223 (市役所6階)

<被災者の健康管理の支援>

大分県西部保健所、地域包括支援センター、自治会等と連携し、被災地域の方の健康管理のために、被災者への訪問活動などを実施します。

健康保険課健康支援係
☎④3000 (ウェルピア内)

<林業関連施設の復旧等>

被災林道等の早期復旧に取り組むとともに、林地及び林業用施設(作業道等)の災害復旧、林業機械の復旧に対する支援を行います。

林業振興課
☎②8212 (市役所3階)

<農業者への再建支援>

被災農業者が行う農地、農道、水路等の復旧及び農業用ハウスの再建に対して引き続き支援を行うとともに、被災農地の大区画化や園芸団地等の生産基盤の強化に向けた取組を行います。

農業振興課
☎②8211 (市役所3階)

<学校施設の復旧等>

小野小学校については、道路や周辺の復旧状況等を考慮し、戸山中学校において教育活動を行っています。小野小学校での教育活動の再開については、保護者や地域の方たちの意見も聞きながら慎重に判断してまいります。

教育総務課総務企画係
☎②8234 (市役所別館3階)

<公共交通の復旧>

・JR久大本線
7月14日に復旧。
・JR日田彦山線
早期復旧を働き掛け、復旧するまでの間は、乗合デマンドタクシーの運行を始め、公共交通の確保に努めます。

まちづくり推進課公共交通・交流係
☎②8356 (市役所6階)

夜間などの避難行動について

避難勧告等が発令された場合、災害が発生する前に危険な場所から離れ、避難所などへ避難する「立ち退き避難」が基本ですが、夜間などで、避難所へ移動することがかえって命に危険を及ぼしかねないと自ら判断する場合には「**近隣の安全な場所**」への避難や「**屋内安全確保**」の行動をとりましょう。

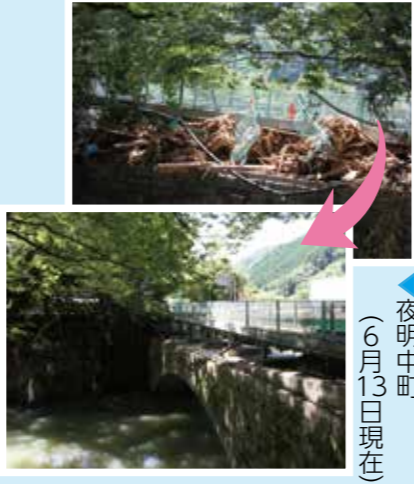
【**近隣の安全な場所**】
土砂災害のように極めて突発性の高い災害の際には、近くの頑丈な建物等に避難することも検討する

【**屋内安全確保**】
2階などの上層階や、できるだけ崖から離れた部屋など、屋内の安全な場所へ移動する

防災・危機管理課
☎②8363 (市役所4階)



夜明中町
(6月13日現在)



殿町
(6月12日現在)



野菜工房「沙羅」
(6月13日現在)



鈴連町
(6月12日現在)



1年を振り返り、インタビュー



▲防災バッグ

小野地区鈴連町自治会長 野田高德さん

1年経ち、ようやく工事の方針が決まり少しずつ前に進んでいます。しかし、現実には安全に対する不安は消えず、家に戻れない人や再建を迷っている人もいます。改良復旧が進み、皆さんが以前のような生活に1日も早く戻ることが何よりの願いです。また、鈴連町自治会で話し合い、携帯の充電器付きラジオ・ライト等(上記写真)の入った防災バッグを各世帯に購入しました。災害時に迅速な行動ができるよう、前もって準備することが防災に対する心構えに繋がれると思います。



▲パソコン・新聞記事
(過去の記録を保存し、今後に活用)

大鶴地区上宮町自治会長 藤井隆幸さん

日田市は昭和28年に4日間で700ミリを超える豪雨災害があり、記録資料からも昔から災害は何度も起こっていることが分かります。災害は自然と共存していると必ず起こるため、天気予報で雨が降ると分かっていたら明るいうちに避難しておくことも大事です。何もなかったとしても避難訓練ができたと思えば、万が一に備え行動を起こすことが大切です。そして、防災ネットワークを地域ごとでできるように、日頃から情報交換をしていくことが必要です。